



☀️	旅館・ホテル	宿泊は10,11月実績が2019年を超え、収益状況は好転。宴会の動向も忘新年会の予約が増加し状況は良い。動きが活発になってきたが、人手不足の深刻さがより一層厚き影になり、客室等をフル稼働できず、収益の最大化が困難である。
----	---------------	--

☀️☁️	食品団地	11月商況は、県内が好調であった。観光・イベント効果によるものが景況感を押し上げたようである。県外市況も昨年に比べると好況感があつた。収益面ではコストアップ分をまだまだ吸収できておらず、厳しい経営環境が続いている模様。新型コロナウイルスの影響は感じなくなった。エネルギー価格と原材料価格が上昇し、値上げ交渉が長引いており、困っている企業が多数ある。
	テントシート	昨年度より帆布製品の大幅な値上げが、やっと販売価格に転嫁できそうな感があるなかで、小幅ではあるが、帆布製品、副資材等の相次ぐ高騰で非常に厳しい状況が長引きそうである。新型コロナウイルスの影響が下火に向かうなか、イベントの開催がコロナ前への回復基調にやっとなったように感じる。イベント関連事業は回復基調にあるが、販売事業は厳しい状況が続くと思われる。価格転嫁は、大変厳しい状況が続く。
	生鮮魚介卸売	前年より売上高は増加している。運賃・資材等の高騰により、利益には繋がっていない。カツオ・マグロの入荷が少なくなってきた。運賃・資材・氷代等が高騰している。
	電気機械器具小売	11月度は全商品平均で103%。白物家電が好調だった。テレビは前年比98.6%。リフォーム関連商品も好調である。
	商店街(四万十市)	商店街のお客様用駐車場がどれだけ来客に使われているのか、各商店街と市役所が協力して3日間調査を行った。一篠大祭も滞りなく、各行事が行われた。

☁️	酒類製造	1人当たりの消費量の減少、消費の停滞が見られる。土佐流おきゃくの復活に期待したい。電気料金、運送費の高騰の影響がある。また、新型コロナウイルスの影響で、土佐の酒文化・血鉢料理・返杯・献杯等が自粛されている。
	木製品素材生産	入荷量は、多少増加してきているが例年と比べると少ない状況。今後、冬季の積雪等が心配されるところ。丸太価格については、樹種により多少の違いはあるものの全体的に横ばい状況。年末に向けての需要回復に期待。
	建具	設計事務所の設計で地元の工務店が建てる住宅の別荘建具・家具の仕事が少ないと思われる。
	製紙(家庭紙)	タオル用紙は、生産量が少ないながらも、販売量・販売金額・生産量が前年同月比及び前年累計比で増加している。トイレットペーパーは、販売金額は前年同月比及び前年累計比で増加しているものの、販売量は前年同月比及び前年累計比で減少している。また、ほとんどの紙製品で販売金額及び販売量は昨年を下回っており、紙製品全体として厳しい状況に変わりはない。価格転嫁は一段落ついた状況である。しかし、全てを価格転嫁できているわけではないので、厳しい状況が続いている。
	製紙(手すき和紙)	原材料等の高騰により仕入れ価格が高くなり、収益の幅が少なく厳しい状況。イベントなどもあちこちで開催され、人流は戻りつつあり、購買の変化が見える。まだまだ厳しい状況が続く。価格転嫁は一段落ついたが、まだまだ不安定な状態なので、厳しい状況に変わりはない。
	刃物製造	海外客相手(インバウンド)の間屋・小売店からの注文はあるものの、受注に対し供給が遅れているため、売上が伸びていない。海外からの受注は少し減少しているため、今後の対策を考えていかなければならない。また、資材関係の値上がりが増えていることも気になることである。材料・光熱費の値上がりで、生産者は厳しい状況が続いている。
機械団地	団地内の業況はバラツキがあり、一進一退を繰り返している。リードタイムの長い製造品を扱う業種では原材料高騰をタイムリーに価格転嫁することが難しく、収益改善が図れないとの声がある。リードタイムが長く反映タイミングが難しいため、原材料の高騰による価格転嫁が課題である。ガソリン代の高騰により経費が増加している。	

	船舶製造	生産状況は引き続き高い水準である。
	珊瑚装飾品製造	11月度の取引額は前年同月比211%となり、コロナ禍前の水準(令和元年11月比117%)に戻りつつある。
	卸団地	前年より動きが良い状況である。全体的なコストアップにより収益改善に繋がってはいなかったが、原油価格が多少下がってきたため、少しずつ改善されてきた。一方で、仕入価格高騰による収益悪化が進展。販売価格への転嫁は十分に進んでいない。電気代・ガソリン代等の値上げも収益悪化の原因となっている。新型コロナウイルスの影響で売上が減少、エネルギー・原材料価格等高騰分の転嫁が十分にできていない。
	青果卸売	果実は入荷量が昨年対比93%と10月よりは回復。キロ単価は昨年対比109%と好調で、販売金額は10月よりは良かったのではないかと。野菜も入荷量は昨年対比96%と10月よりは回復。ただキロ単価が昨年対比108%と10月より大幅に安くなり、利益面で回復の傾向も感じられる。
	各種小売(土佐市)	新型コロナウイルスが落ち着いてきたといってもなかなか売上増加とはいかず、人があまり動いている感じがしない。
	中古自動車小売	地元中古自動車業者から離れていた顧客が戻っている傾向にあり、新規客も増加傾向にある。10月から「支払総額表示」を実施したことにより、消費者から安心感と信頼を得られていることが1つの要因と思われる。
☁️	商店街(高知市)	中央公園地下駐車場 売上前年比:94.5%、利用台数前年比:91.6%。中央公園のイルミネーションが11月末に点灯され、忘年会シーズンに入ったのか、週末の夜は多くの若者で賑わっている。忘年会の予約も好調の様子。
	飲食店	業況は先月と変わらない。前年同月比から売上は1割程度増加しているが、光熱費や仕入れ価格の高騰に対して販売価格が上昇しているためであり、その上、価格転嫁は十分とはいえず収益は悪化している。コロナ禍以前との売上比較は8~9割。売上高の回復は頭打ちの感がある。電気・ガス等のエネルギー、大手メーカーの原材料等の大幅な値上げに対し、顧客離れや売上の低下等の懸念から業界の価格転嫁力は低い。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比83%、全旅クーポンを加味して82%(ただし、全組合員の売上が揃っていないため、前年並みの売上を見込んでいる)。秋の旅行シーズンに台風の影響がなく、募集旅行実施にも影響はなかった様子。新型コロナウイルスに係る貸付金の返済が始まっているため、売上は回復しても見通しが厳しい。
	IT事業	昨年度に比べて売上高の減少が続いている。システム需要はあるのだが、対応できる人材の不足もあり、当分この状態が続くと思われる。AI関係など活況な部分もあるが、案件化までは至っていない。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は前年同月比184.4%となった。香長地区が324%、中芸地区が302%と大幅に増加した。
	タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:105.8%、輸送回数:100%、実働率は52.1%。タクシー運賃の改正申請手続きをしており、年内の認可・実施に期待していたが、年を越しての認可となりそうである。

☁️☔️	製材	新設住宅着工戸数は減少が見込まれ、受注面は厳しくなる見通し。
	印刷	3ヵ月連続で売上増加、設備操業度上昇だったが、当月は売上不変、設備操業度低下。県外需要は回復傾向が見られるが、肝心の県内需要が選挙期間中ということもあり低迷し全体に落ち込んだ。通常11月期は売上・設備操業度もまずまずのはずが厳しい結果となった。
	生コンクリート製造	11月度の全組合員の出荷量は、単月で対前年比82.9%、4月からの累計は90.5%で単月の対前年比が約10%減少した。地域的には中部協組以外は全県下で減少傾向が続いている。セメントの値上げがあったが、一部の地域で価格転嫁が進んでいない。
	コンクリート製品	前年同月比57.3%。例年より減少傾向にある。セメント等の原材料が高騰している。
	ガソリンスタンド	イスラエルとガザ地区の紛争により不安定な情勢は続いており、この1ヶ月原油価格は下がり続けているが、政府の補助金額も下がっており、販売価格にあまり変化はない。補助金額は、先月末時点では35.7円/L、11月末現在は21.9円/Lとなっており、13.8円下がっている。しばらくは、販売価格に大きな変化はないと思われる。現在、新型コロナウイルスだけでなくインフルエンザも流行しており、人手不足に拍車がかかっている。
	商店街(安芸市)	阪神タイガースが38年ぶりの日本一を決め、安芸市全体が盛り上がりつつある。また、2軍選手の秋季キャンプもあり、県内外から例年以上にたくさんの来場者が訪れた。原材料価格等の高騰について、価格転嫁を行ったところや検討中の店舗もあるが、値上げによる購買数の減少など影響があり得る。
	クリーニング	売上は横ばい。物価高による顧客の節約志向、持込み点数絞込みが出ている。大手では人手不足により営業時間短縮などの影響がある。廃業も続いている。インボイス制度が始まり、非課税事業者の中で大手得意先の損失が出ている。新型コロナウイルスの影響について、行動変容が定着し、リモートワークによるワイシャツ需要が減少。冠婚葬祭・宴会需要はかなり改善してきた。
	一般土木建築工事	令和5年11月分の公共土木生コン出荷量は、前月比96.5%、前年同月比82.9%。11月の工事請負金額は前年当月比で85.0%。令和5年11月末時点の前年対比請負金額は、国:93.3%、高知県:96.6%、市町村:83.5%となっており、工事請負金額・生コン出荷量共に減少している。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続している。生コンクリート販売単価については、今後も生産原価上昇、値上げ交渉が必要となることが予想され、共販率向上に向けた取組みを当組合としても行っていく。セメント・原材料・骨材・燃料費・人件費等高騰により、県下では生コン販売価格引上げを引き続き交渉しているものの、引上げペースは鈍化している。
	一般貨物自動車運送	11月は物量が少し戻ってきたように感じられる。しかし、燃料価格は原油が値下がりしたが、それに伴い補助金額も下がったことから実質値上げとなったため、経営は改善されたとはいえない。新型コロナウイルスの影響で、荷物が回復しきっていない。燃料高騰による運賃転嫁がなかなか進まない。